

## 第1章 聴覚障害児の補聴器理解のための教材開発(1)

### 補聴器理解のためのビデオの試作及び実践的評価

#### 1. はじめに

これまで、我々は通常学校に学ぶ難聴児童のコミュニケーションのハンディキャップについて調査を行ってきた(1998, 1999)。その結果、補聴器及び補聴機器(例えばFM補聴器など)に対する理解が問題となり、コミュニケーション上のハンディキャップに発展することが多くみられた。その理解の問題とは、補聴器を装用すればよく聞こえるようになり何の配慮もいらないと思われていること、補聴器から発生する音響的フィードバックが不快と思われていることなどである。そこで、我々は、通常学校の児童に対する難聴児の装用している補聴器についての理解のための教材(ビデオ)を試作し、若干の知見を得たので報告する。

#### 2. 補聴器に対する理解のための教材(ビデオ)の試作

これまでに、難聴児のきこえの理解のためのビデオ及びCDなどが数多く作成されてきた。その中で代表的なものとしては、英国難聴児親の会がキール大学の Evans と共同で開発した「Listening Through Frosted Glass」、Moore, B. J. (1997)によって作成された「Perceptual Consequences of Cochlear Damage」があげられる。これらのものは、難聴児のきこえのシミュレーションに加え、難聴児にとって補聴器が最も適合された状態を想定されたシミュレーションが付加されており、難聴児の装用している補聴器の状況が明確にわかるようになっている。しかしながら、これらのビデオ及びCDは専門家、教員向けに作られており、小学校における児童については難解な表現、映像が多く、そのまま利用するには困難かと思われる。今回、我々は、小学校高学年向けに補聴器に対する理解のための教材(ビデオ)を試作した。その内容としては以下のとおりである。

「補聴器ってなあに」

- ・補聴器はだれのためにあるの

補聴器は難聴児がいろいろな音や声をきくためにあることを説明する。

- ・補聴器はどんな役割をするの

いろいろな音や声など大きくしてはっきりよく聞こえるようにすることを説明する。

- ・補聴器はどんな形があるの

補聴器にはポケット形、耳かけ形、耳あな形、めがね形があることを説明する。

- ・補聴器はどんなしくみになっているの

補聴器には、スイッチのつまみ、ボリュームのダイヤル、マイクロホン、イヤホンがあるこ

とを説明し、さらに電池はどのようなものを使っているのかを説明する。

・補聴器はどんな使い方をしているの

耳かけ形補聴器について取り上げ、補聴器の本体を耳にかけ、イヤホンの部分を耳の中に入れる、イヤホンがはずれたり、隙間ができるとピーピーなること（音響的フィードバック）について説明する。

・補聴器はどんなふうに聞こえるの

これまで、難聴児のきこえのシミュレーションに関しては、フィルタなどを通して音声を加工したものが殆どであったが、難聴児本人が訴えるきこえの状況を考えてみた場合、必ずしもシミュレーションされた状況と一致しないことが多く、今回は、補聴器を通した音声と普通のマイクロホンを通した音声とを比べることにとどめた。

ここでのねらいは、補聴器は静かなところでは、十分な音量で聞こえるが、まわりが騒がしいところではうるさいだけでききたい音声がよくききとれず、役にたたないことを理解することである（朝会、給食の場面等。）

・こんな時にご協力をお願いします。

補聴器はとても精密に出来て壊れやすいことで、体育の授業などで衝撃（例、ボールが当たること）を与えないように気をつけてほしいこと、水分に弱く水泳の授業の時ははずしているため、コミュニケーションに配慮してほしいことを取り上げた。

### 3. 通常の学校における児童の反応

今回試作した補聴器に対する理解のための教材、通常の学校における高学年学級（児童数 28 名）での「聴覚障害に関する理解と啓発」の授業の 1 つのプログラムで取り上げた。そこで、そのビデオを視聴した感想を学級児童全員に自由記述で記入してもらった。ここではその一部を記す。

補聴器をつけている人のきこえかたをきくと、人がしゃべったりする時、すごくきこえにくかった。

補聴器はいらぬ雑音を拾ってザワザワといっているし、音がいつもより倍になっていて頭が痛くなりそうだった。

補聴器をつけた子が聞いている音はとても聞きにくくて「行き違い」が起きてしまうことがあるかもしれない。

補聴器をやってみると声は聞こえるけれどまわりの音がすごく聞きづらかった。

ビデオをみて思ったことは、普通の耳よりも雑音が大きくて聞こえにくいと思う。道を歩いている時はどんな感じなのかと思うことがある。

#### 4.まとめ

これらの感想にみられるとおり、補聴器を通した場合、周りの雑音で音声がききづらくなること、場面によっては補聴器が役に立たないということが改めて理解された。また、その教材視聴を基盤として、どのような配慮が必要かを考える機会にもなったようである。

しかしながら、今回試作されたビデオについて、説明の文字が多すぎて低学年向きではない、補聴器を通した音声のみだと補聴器をしていない時の音声との比較ができないという意見が、授業を担当した教師から出され、ビデオを開発する上での課題とされた。

#### 文献

Moore B.J.:A compact disc containing simulations of hearing impairment. *British Journal of Audiology*,3,1,353-357,1997.

佐藤正幸他：聴覚障害児の聴覚活用の指導法と評価法 補聴援助装置・コミュニケーションのハンディキャップ 国立特殊教育総合研究所一般研究報告書,2000.